

**2012 年度 第 2 回全体研究会**  
**「アジアで活躍する仏教指導者」 (第 2 回)**

(共催：龍谷大学仏教文化研究所・仏教文化講演会)

報告題目	タイ仏教僧団の教育制度
開催日時	2012 年 5 月 16 日 (水) 10 : 45 - 12 : 15
開催場所	龍谷大学大宮学舎東翼 1 階 103 教室
報告者	Phramaha Thana Tejadhammo 師 (タンマガーイ寺院教育部副部長・タンマチャイ大学設立プロジェクト代表)
開会挨拶	淺田正博 (龍谷大学文学部教授)
ファシリテーター	楠 淳證 (龍谷大学文学部教授)
コメンテーター	桂 紹隆 (龍谷大学文学部教授・BARC センター長)
参加者	158 人

**【報告のポイント】**

プラマハ・タナー・テーシャタンモー師は、タイ仏教僧団の教育制度の歴史を概観した後、現在実際に行われているタイ仏教僧団の教育カリキュラムを以下のように具体的に説明した。

**【報告の概要】**

タイ仏教僧団における教育は、元来、口伝により行われ、仏典等の暗唱が中心であった。1477 年ラーナー王朝第 9 代ティローカラート王は、タイ国における三蔵の第 1 結集を行ない、それまで口伝であったものを文字化し、聖典として編纂させた。1627 年アユタヤ王朝第 24 代ソントム王は、国内の高僧及び仏教学者を招聘し、写経事業を行うなど、それまで口伝であった仏典等の文字化を積極的に推進した。現在でも続くパーリ語検定試験はラーマ 3 世によって始められた。

1889 年には、ラーマ 5 世により、僧侶養成の仏教学院として現在のマハーチュラロンコーン大学 (MCU) の前身であるマハータート・ウィッタヤーライが創設された。さらに、1893 年、ラーマ 5 世は自らの即位 25 周年を記念して「タイ文字パーリ三蔵」の刊行事業を行なった。以上のように、タイ仏教の近代化は国王の主導によって進められた。

現在のタイ仏教僧団における教育カリキュラムは、パーリ語、仏教教理学、アビダンマ学によって構成される。前2者は、初級・中級・上級の三級に分かれている。パーリ語学初級では、パーリ語文法と、パーリ語からタイ語への翻訳を学ぶ。中級では、パーリ語をタイ語に翻訳することに加え、その逆にタイ語からパーリ語への翻訳も学ぶ。



上級では、中級の内容に加え、パーリ語偈頌の作成を学ぶ。1911年に口頭試験から筆記試験へと変更された。現在の試験は1年に1回行われている。

仏教教理学の初級のカリキュラムは、釈尊伝、小論文（1偈頌）、基本教理、227戒、中級は、仏弟子伝、小論文（2偈頌）、経蔵、律蔵、上級は、釈尊・仏弟子伝、小論文（3偈頌）、経蔵、僧団の規律によってそれぞれ構成される。1928年には一般在家者向けの仏教教理学の教育制度が創設され、「仏教教理学検定試験」制度が創始された。これは、僧侶の教育制度と同様に初級・中級・上級に分かれるが、その内容は僧侶のものより簡素化された。



アビダンマ学の教育は1932年に始まったが、1986年になってようやくワット・ラカン寺院のアビダンマ・ショーティカ・ウィッタヤーライがその正式な教育制度を創設し、全国の寺院に広めた。アビダンマ学のカリキュラムには、学習期間7年6ヶ月の基本コースと6年のマスターコースがある。

タイの主な仏教系の大学としては、マハーチュラロンコーン大学（MCU）、マハーマクット大学、タンマガーイ公開大学（DOU）がある。MCUには、仏教学部に12学科があり、マハーマクット大学（MBU）宗教哲学部には、宗教哲学、比較宗教学、仏教学、哲学の4学科がある。

また、タンマガーイ寺院が創設したタンマガーイ公開大学（DOU）では、通信教育という形態ではあるが在家者にも門戸が開かれ、専門的仏教学の他に、業・輪廻など仏教教理に基づいた人生観、瞑想実践法、仏教の応用としての自己啓発・社会平和・仏教経済、さ

らに接客マナーなどの人間関係の構築といった、仏教の実社会への応用についても広く教育されている。

以上、テーシャタンモー師の報告は、タイにおける仏教僧団の教育制度が近代化されていく過程を具体的に明らかにするものであった。また、タンマガーイ公開大学のように、仏教の実社会における応用が教育カリキュラムに組み込まれたものもあるという点で、アジアにおける現代仏教の社会的役割を考える上でも示唆に富むものであった。

### 【議論の概要】

桂紹隆氏は、タイ仏教僧団における教育制度の歴史が、龍谷大学の明治以降の近代化のあゆみと類似する点があると指摘した。また、パーリ語学の教育における小論文（偈頌）の学習にはダンマパダのみを用いるのかと質問した。それに対し、テーシャタンモー師はダンマパダに限られないと答えた。

また、フロアからは、アビダンマ学とは具体的に何を指すか、そして、タイ僧団教育において行われている瞑想実践が、伝統的な上座部仏教の瞑想といかに異なるかという質問がなされた。これに対し、テーシャタンモー師は、タイ僧団教育におけるアビダンマ学の具体的内容とは、「心 (citta) ・心所 (cetasika) ・色 (rūpa) ・涅槃 (nibbāna)」について学ぶことであると答えた。そして、瞑想実践法が伝統的な上座部仏教の瞑想法と異なるとは言えないが、それぞれの寺院によって教える方法が異なる。つまり、『清浄道論』に見られる 40 種の瞑想実践法からピックアップして教えることになっていると説明した。